

Journal of The Infosociomics Society

Foreword

VOLUME5 No3,2011

はじめに

情報社会学会会員の皆様

『情報社会学会誌』第5巻第3号をお届けいたします。
本号は、招待論文1本と査読審査を経た原著論文2本及び研究ノート1本を掲載いたしました。
いずれも、時期にかなった興味深いテーマが取り上げられました。

招待論文「Q&A サイトにおける自分の投稿に対する評価を操作するために複数のアカウントを利用するユーザの検出」は、情報社会学会主催の「第3回知識共有コミュニティワークショップ」(2010年12月龍谷大学にて開催)で優秀賞を受賞した論文です。統計的に納得できる形で論理を展開し、「学問領域を超えた新たな協働を促進すること」という企業との共同研究に発展するよう期待したいと思います。

原著論文「ユーザー・クリエイティブ・ネットワーク～ユーザー・クリエイションを考えるためのメカニズムを再考する～」は、同じく「第3回知識共有コミュニティワークショップ」(同上)で、情報社会学会学会誌への推薦論文となった論文です。UCCの興隆の背景を整理しつつ、専門家が介在しない趣味のネットワークとのUCCを比較検討し、UCNという概念を打ち出し、オンラインのUCNにとってオフラインのUCNとのネットワーク効果が重要であることを指摘しています。まさに時宜にかなった、興味深いテーマです。

原著論文「オンラインコミュニティにおける効用相反とそのハーネシングに関するエージェントシミュレーション」は、組織効用と個人効用を従属変数として、さまざまな条件を設定してシミュレーションシモデル化を試み、いくつかの重要な知見を見出しています。その成果は極めて大きく、独立変数として設定した条件にも、多様性、自主退会、インセンティブ制度、相互交流など、ユニークな洞察があります。今後の活躍に期待したいと思います。

研究ノート「通信・放送融合環境下における通信プラットフォームに関する考察」は、通信と放送の融合に関して、従来までの技術論的アプローチ、制度政策論的アプローチ、文化論的アプローチをふまえた上で、ビジネス論的アプローチを試みたものです。社会的意義、問題設定は学術的に意味があり、今後の提案の実証的な裏付けを期待したいと思います。

巻末には、本年度実施のワークショップおよびシンポジウムの報告を掲載いたしました。
また情報社会学会公文書編纂による『情報社会学概論』(2011年1月、NTT出版)のご案内を掲載いたしました。

会員の皆様からの積極的な投稿論文をお願いいたします。

2011年3月31日

情報社会学会編集委員会
委員長 大橋 正和